

市民と議員の懇談会会場での意見まとめ

日時：2023年11月19日(日) 10時から12時

参加者：議場39人、オンライン13人 合計52人

記録：今野議員、村上議員

- ・災害事例も参考になった。水害危機が上広谷に迫った時、班長が雨の中連絡に走った。南市民センターが避難所になっている。自治会の役割は何か。
- ・対応は地域によって異なるだろう。いずれにせよ災害時に自治会の役割や近隣の助け合いが重要。神戸では近所の助け合いの事例が報じられている。自治会は住民に近い存在なので、災害時の対応で重要になる。
- ・歳入歳出にある民生費の中身がわかりにくい。わかりやすい予算の説明が欲しい。自治会でもわかりやすさに気を付けている。鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会での防災訓練は、312名の参加があった。新たに防災倉庫ができたが、災害時の使い方がわからない。今は市の職員しか開けられない。住民がわかりやすく、使えるように。学校の倉庫も鍵がかかっていると使えない。鶴ヶ島第二小学校は門の施錠なし。住民が災害時に倉庫を使えるようにして欲しい。市のマニュアルをみても、避難所で誰が旗振りをするかなど明確な記載がない。たぶん現場にて、最初に組織を作ることになるだろう。訓練してリーダーを確認することも重要。災害時には市の職員が防災施設(倉庫)をチェックできない可能性が高い。住民がチェックし、使用できるほうが現実的でないか。使えるようにして欲しい。鶴ヶ島鶴二小学校地区の防災訓練は、昔は500人、1000人規模が集まる規模もあった。今は、5年生を対象に防災訓練を行っている。自治会別に避難、そして自治会別に集まる。一步、二歩踏み込んで自治会が中心に行っている。鶴ヶ島にも災害があるかも知れない。阪神・淡路大震災の直下型が参考になる。避難所を上手に機能させるべきだ。本市の防災の日を決めるべきと提案する。そして徹底して防災に取り組む。議員団と市民でしっかり取り組んで欲しい。歳入歳出、わかりやすく透明性があるように。そのほうが市民が議論に参加できるようになる。
- ・懇談会の割りに進行が硬い印象。議会側のみが録画できるのは違和感。市民が録音・録画できないのは法的な根拠があるか。一方的に議会側のみはおかしい。双方に同じ対応が望まれる。
- ・報告を聞いていると、避難所、避難所運営に重点を置いているようだ。10年前頃に、災害時要援護者登録制度が開始された。必要者を100数十人登録した。松ヶ丘でも10数名程度あった。自治会長に渡す際、受け取りのサインまで取った。後は皆さんよろしくと、丸投げされた。登録者は市の対応を期待したはず。一度だけ追加の名簿。その後の名簿更新なし。今の災害時要援護者登録制度の実情はどうなっているか。
- ・防災の要(かなめ)となるのは、避難したくてもできない人たちへの配慮。本市は水害を想定せず、地震を想定すべきだろう。地震は罹災後の避難。被災、罹災者に対する公助も必要。公助の部分が腰が引けている。安易にできる避難所運営訓練で訓練を行った気になっている。高齢化が進んでいる。一人暮らしの高齢者の数は把握しているのか。災害時に自力で避難できない人が増えている。
- ・議員からの回答はのんびりしていると感じる。国の仕組みなどは置いておいたほうがよい。藤金地区でも、高齢者、子育ての問題がある。去年の対応はどうだったか。大雨のとき被災する立場の住

民が声を掛け合っている。議会も矢印が向いていないのでは。議会でも十分対応して欲しい。避難所対策の次の策に踏み込んで欲しい。一年間何も進んでいない。焦点が合っていない感じがする。

- ・鶴ヶ島市でも風水害、記録的短時間豪雨発生することが分かった。高麗川は坂戸市が主体だが、鶴ヶ島市は大谷川、飯盛川の内水氾濫への対策が必要。坂戸、鶴ヶ島下水道組合では1時間58mm想定で作っているが、不十分。水害を防ぐためには、遊水機能が必要だ。都市計画段階から遊水機能を配慮して設計して欲しい。
- ・内水氾濫で質問。ハザードマップによれば羽折地区では、高麗川による危険地域は黄色で区分されている。50cm浸水すると予想されている。これらは対策のために意義がある。根拠はあるか。
- ・災害を未然に防ぐ観点で政策をして欲しい。川越地区も安心できる。
- ・熱中症、中学校体育館の空調は議員のおかげで進んだ。2018年以降、教室の危険な暑さが取りざたされる。本市の今年の対応は。
- ・学校の最上階の温度が下がりきらない。温度管理がされているか。行政で調査、断熱工事、太陽光発電設置の手法もあるのでは。子供の熱中症対策を。市の施策は子供優先で進めて欲しい。
- ・安心安全、防犯カメラの設置について、現時点の計画はどうか。
- ・土地利用、建物構造、風水害、台風の巨大化、短時間集中豪雨が通常化する。長期的な計画を教えてください。
- ・近隣で大きな震災が発生する可能性がある。神奈川県相模湾を震源とした過去の大震災では物流が滞った。鶴ヶ島市に物資が届かなくなる。現状の備蓄では足りない。帰宅困難者も出るだろう。対策はどうか。
- ・災害には疫病が含まれている。コロナは5月で終了。3年間の予算の使い方はどうだったか。フレイル予防の体操に600万円の予算が使われた。議会でどのようにチェックしているか。対策がザルにならないようにして欲しい。
- ・今回の意見が、今後、議会や市政に反映されるか明確にして欲しい。
- ・去年の懇談会の記録が消されている。意見がうやむやになる。2011年に懇談会があった。議会に反映して、回答を市民にわかるようにして欲しい。
- ・長期的な計画が重要だ。もっと大きい問題がある。本市でも3月に鶴ヶ島市ゼロカーボンシティ宣言が始動。私も環境基本計画作成にも参画した。2050年に地球規模でカーボンニュートラルにする必要がある。熱中症、豪雨、環境問題、地球規模で考え、足元から実行する必要がある。
- ・最大の防災対策は住民パワーの活用だ。上広谷でも高齢化が進む。元気な高齢者や自治会を活かす必要がある。協力的に動ける自治会にするために行政に支援してもらいたい。高齢などの理由で自治会を退会する人に、情報が届かなくなることを心配している。自治会の運営を手助けして欲しい。いざというときに動ける自治会、人づくりをして欲しい。

オンライン参加者のチャットより

- ・女性目線の防災備蓄について。
- ・第3期鶴ヶ島市環境基本計画は誰向けに作っているか。図書館に3冊しかない。知らない市民が多い。販売したほうがよいのでは。どのように返事をもらえるのか。